

# こども園関係者評価委員会 会議録

日時 令和6年2月26日(月) 午後1時半～

・園の取り組み状況 ※資料参照

## ・評価委員と園との意見交換

- ① 保護者アンケートの「こども園は、一人一人の園児の育ちを保護者に伝えている」という設問のC評価について
  - コロナ禍にクラス懇談ができていなかったため、こう育ってほしいという思いがなかなか伝えられなかったが、今年度は一年通して懇談をすることができ、園での様子を伝えたり保護者同士の交流もコロナ禍前に戻ってきました。しかし、まだまだ園での我が子の様子が見えにくく不安に思われている保護者の皆様の評価を真摯に受け止め、個人懇談を全児1回、希望者には年末にもう1回行ったり、積極的にコミュニケーションを取るようにしていっています。
  - 園での様子をWebやドキュメンテーションで知らせていますが、子どもの育ちや発達の視点もふまえて、保護者に園での様子を知って頂けるよう、情報発信の工夫が今後の改善点であると認識しています。
- ② 「科学する心を育てる」という園での取り組みが保護者に伝わっていないのがもったいないように感じます。
  - 各クラス、園での保育内容をドキュメンテーションで掲示していますが、保護者にとり組みの意図を補足して伝えていく必要があると感じています。遊びを通じて活動する中で、“こうしたい” “またやりたい”という意欲につなげています。
- ③ 小学校との接続・連携について
  - ・今年度は駅家小学校の先生があおばこども園に来て、年長児の保育内容や園児の姿を見させて頂きました。子どもたちは園ではできることがたくさんあるのに、小学校でできなくさせてしまっているのではないかと(小1の壁)と感じています。こども園でできていたことをどう小学校が引き継ぐか、大きな課題です。(小学校)
    - ※ 例 6年生が1年生にホウキの持ち方を知らせているが、1年生はすでに知っている など
  - ・「活動が楽しかった」だけでは、学びに結びつきません。次はどのようにしたらより活動が深まるかという自分たちで考える力を身につけられるよう、職員が関わっていく必要があると思います。
  - ・来年度は午後からの活動(給食準備、給食の様子など)を見させていただき、見る視点を広げていきたい。(小学校)
    - 今までは保育教諭の声かけや援助から学びに気づく姿が見られていたが、今は子どもたち自身が学びに気づいたり、子ども同士で学びを深めようとする姿が見られるようになってきている。子どもたちにちょっとしたスパイスを与えることで、子どもたちの「やってみよう」という気持ちが芽生えるように関わっています。
- ④ 知らない人に声をかけられるなど今の時代、怖いこともあるのでどのように子どもたちに知らせていますか。
  - 園では紙芝居などで伝えたり、毎月、不審者対応訓練を行い職員が落ち着いて対応できるようにしています。

次回 令和6年6月頃予定